

◆◇ 会議録 ◇◆

会 議 名	令和6年度第3回阿南市総合計画審議会		
開催年月日	令和7年2月20日(木)	資料の有無	無 ・ (有) →別紙
会 場	阿南市役所2階 202・203・204会議室		
出席者	【委員】 青木委員、小笠原委員、兼松委員、紅露委員、鈴江委員、中川委員、永田委員、中野委員、新居委員、西岡委員、美濃委員、箕島委員、撫養委員、山本委員、米田委員、片山委員、和田委員 計17人 【市】 岩佐市長、西田副市長、平井副市長、坂本教育長、東條政策監、篠原政策監、吉積企画部長、幸泉総務部長、中川危機管理部長、田中市民部長、湯浅環境管理部長、荒井保健福祉部長、吉岡産業部長、柳川建設部長、高山都市整備部長、小坂会計管理者、柏木水道部長、中橋教育部長、川端消防長、佐坂議会事務局長 計20人 【事務局】 七條企画政策課長、脇坂課長補佐、川野主査、岩浅主事		
内 容			
(13:30 開会) 【七條企画政策課長】 定刻がまいりましたので、只今より、令和6年度第3回阿南市総合計画審議会を始めさせていただきます。委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、御参集いただきましてありがとうございます。 それでは、開会にあたりまして、岩佐市長より御挨拶を申し上げます。 【岩佐市長】 皆様におかれましては、本日は、公私にわたり御多忙にもかかわらず、阿南市総合計画審議会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。 前回、11月に開催いたしました第2回阿南市総合計画審議会では、基本構想の素案に対し、活発に御議論いただき、後日、箕島会長から答申をいただきました。その後、阿南市議会12月定例会において、本市における総合的かつ計画的な行政運営を図るための基本構想の変更を可決いただいたことを受け、新しい基本構想を実現していくための具体的な施策や事務事業等を位置づけた基本計画の見直し作業を行ってまいりました。 本日、御審議いただく基本計画の素案につきましては、2028年の都市像である「輝く個性を育む 自然と調和した産業都市 阿南」の実現を目指し、地方創生の理念を取り入れた新たな6つの基本政策である、「災害に強く安全・安心な阿南の創生」、「地域産業が伸びゆく阿南の創生」、「こどもまんなか笑顔あふれる阿南の創生」、「健康でひとに優しい阿南の創生」、「歴史・文化とスポーツでにぎわう阿南の創生」、「地域の個性ときずなが輝く阿南の創生」を実現すべく、基本構想でお示した政策の大綱に沿って、現状と課題を分析し、基本的な方向性や主要な施策を体系的にお示ししております。 本日は限られた時間の中ではございますが、委員の皆様から忌憚のない御意見を頂戴			

し、基本計画を策定することとしております。また、年度内を目途に、基本計画に掲げた施策を達成するための手段として各事業の実施計画を作成し、「2028年の都市像」の実現に向けた取組を着実に進めてまいりたいと考えておりますので、本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

【七條企画政策課長】

ありがとうございました。

本会議は、阿南市総合計画審議会設置条例第5条第4項の規定により、公開されております。また会議録作成のため、議事進行中は録音をさせていただき、会議録は、ホームページに掲載させていただきます。

本日は、池添委員、坂本委員、佐竹委員、田上委員、西直子委員、西浩司委員、原田委員、松崎委員の8名の方から欠席の御連絡をいただいております、委員17名に御出席いただいておりますので、同条例第5条第2項の規定により、会議は有効に成立していることを御報告申し上げます。

それでは、議事に移りたいと思います。

これより議事進行は、箕島会長にお願いいたします。

【箕島会長】

それでは、会議を進めていきたいと思います。

本日は、「基本計画の見直しについて」が議題となっています。

まずは、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

まず始めに、本日配布させていただいております総合計画の序論部分について説明いたします。阿南市総合計画2021▶2028【改訂版】と書かれた資料を御覧ください。こちらの資料につきましては、現時点でのものでございまして、文章やグラフなど今後最新の内容に置き変わる部分がございますこと御了承ください。

全体の構成についてでございますが、まず1ページ第1章として、総合計画の見直しに当たって、「1. 計画見直しの趣旨」、「2. 計画の位置付け」、「3. 計画策定に当たっての基本的な考え方」、「4. 総合計画の構成と計画期間」、「5. 計画の進行政管理と行政評価」を記載しております。計画の位置付けでございますけれども、こちらの総合計画につきましては、市政運営における最上位に位置づけるとともに、市民主体による将来のまちづくりに向けた基本的な指針となるものでございます。

また、地方創生の取組と一体的に推進するため、「まち・ひと・しごと創生法に規定する「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」としても位置づけるものとするということをごちに記載をしております。

続く第2章は、阿南市の概要を記載しておりまして、今回見直しを行いました人口ビジョンの内容を一部記載するとともに、10ページ以降は産業等に関するデータを記載しております。

16ページからの第3章は、社会経済の動向といたしまして、我が国を取り巻く社会的潮流や本市を取り巻く社会情勢などを記載いたしますが、こちらの内容につきましては、今後最新の状況を記載いたします。

20ページからは、「第4章市民の意見」として、昨年実施いたしました市民アンケート

トの結果を掲載いたします。

26 ページからは、第5章として、1章から4章を踏まえ、「本市を取り巻く環境の変化への対応」を記載することといたします。序論としてはここまでとなりますが、28 ページ以降は、第2編、基本構想へ続き、この後の第3編に本日御審議をいただきます、基本計画を掲載いたします。

以上、簡単ではございますが、序論部分に関する説明とさせていただきます。

続きまして、「基本計画の見直し」について、資料に沿って御説明させていただきます。前回11月に開催いたしました第2回総合計画審議会において、基本計画の策定方針について説明をさせていただき、次回の審議会において、基本計画（案）について御審議いただく旨お伝えいたしておりました。今回、その基本計画を（案）として取りまとめ、御提示させていただいております。本日は限られた時間ではございますが、皆さまに御審議いただき、内容を練り上げてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

まず、基本計画の構成について、基本政策1の資料を用いて御説明いたします。配布資料のうち、基本政策1と書かれた資料の1ページをお開きください。

基本構想で示した6つの基本政策には、それぞれ「防災・消防」など関連する各まちづくり分野を設定し、それぞれ【ビジョン】【現状と課題】【基本的な方向性】【重点テーマと主要な施策】を記載しております。重点テーマの下を御覧いただきますと、黄色の▶で重点テーマに関連する主要な施策を示し、内容に説明が必要と思われるものについては、▶で説明を記載しております。

次に、重点テーマを図ることができる代表的な指標として、重点テーマ1につき、KPI（重要業績評価指標）を1つないし2つ設定し、新たに「指標の説明」と「設定の考え方」、「得られる効果」を記載し、それぞれの重点テーマの達成状況をわかりやすくすることを目指した構成としております。

なお、基本政策1から順番に説明をさせていただき、一つずつ御審議いただきたいと考えておりますが、時間の都合もございますので、一部説明を割愛させていただきます。

では、基本政策1について説明いたします。基本政策1は「「災害に強く安全・安心な阿南」の創生 ～強靱で自然と調和するまちに～」で、まちづくり分野は「防災・消防」、「交通安全・防犯」、「土地利用」など全部で9つの分野で構成しており、6つの基本政策の中でも一番ボリュームが大きく、重点テーマを図る指標であるKPI数は27個となっております。

大規模災害に対する防災対策の推進や内水・外水氾濫対策、消防救急体制の整備強化と地域防災力の強化など、市民生活の安全・安心に直結する重点テーマや、脱炭素社会の実現や生物多様性の保全など本市の豊かな自然環境を未来につなげるための取組の推進などを掲載しております。

まず「1-1 防災・消防」についてですが、2ページ目重点テーマ1として「南海トラフ巨大地震などの大規模災害に対する防災対策の推進」を掲げ、主要な施策として、「緊急避難場所・避難所整備」、「総合防災訓練及び避難所開設・運営訓練等の実施」など12項目を挙げております。KPIとして【避難所（体育館）の空調整備率】を2028年度36%とする目標値を設定しております。

次に3ページ、重点テーマ3として「防災意識の向上及び確実な避難対策の整備」を掲げ、主要な施策として、「自主防災組織の育成・活動支援」や「最新のデジタル技術等を活用した情報伝達手段の研究」など、6項目を挙げております。KPIとして【個別

避難計画の策定割合】を 2028 年度 30%とする目標値を設定しております。

次に 6 ページ、「交通安全・防犯分野」についてですが、こちらの 9 ページ、重点テーマ 4 として「消費生活相談体制の充実」を掲げ、主要な施策として、「消費者教育・啓発の推進」及び「消費生活相談体制の充実」の 2 項目を挙げております。KPI として【消費者啓発講座等の参加延べ人数】を 2028 年度 400 人とする目標値を設定しております。

次に 10 ページ、「土地利用」の分野についてですが、重点テーマ 1 として「集住型のコミュニティづくりの推進」を掲げ、KPI として、【都市機能誘導の方針に基づく誘導施設の建築数】を 2028 年度までの累計として 4 件を目標値として設定しております。

次に 12 ページ、「自然環境・生物多様性」についてですが、重点テーマ 2 として「脱炭素社会の実現」を掲げ、主要な施策として、「省エネルギーの推進と再生可能エネルギーの導入拡大」や、「市民・事業者の環境に配慮した活動の促進」など、5 項目を挙げております。KPI として【温室効果ガス排出量削減率】を基準年度の 2013 年度から 2028 年度▲44.1%とする目標値を設定しております。

次に 16 ページ、「市街地整備・都市景観」の分野についてですが、重点テーマ 1 として「パブリックスペースを利用したまちづくりの推進」を掲げ、主要な施策として、「官民連携による阿南駅周辺まちづくり」や「阿南中央図書館（仮称）の整備」など 3 項目を挙げております。KPI として【駅前芝生広場等のパブリックスペースを活用したイベントの年間総来場者数】を 2028 年度 18,000 人の目標値を設定しております。

次に 18 ページの道路・交通の分野についてですが、重点テーマ 3 として「地域公共交通の核となるバス路線及び離島航路の確保・維持」を掲げ、KPI として【乗合タクシー及び公共ライドシェアの導入地域数】を 2028 年度までの累計で 3 箇所とする目標値を設定しております。

次に 22 ページの「循環型社会」の分野についてですが、重点テーマ 1 として「ごみの発生抑制とリサイクル率の向上」を掲げ、KPI として【ごみ排出量の削減】と、【リサイクル率の向上】の 2 項目を設定しております。

次に 24 ページの「住環境」の分野についてですが、重点テーマ 2 として「快適な暮らしの支援」を掲げ、主要な施策として、「新規住宅建設支援」と「住宅施策の総合的推進」の 2 項目を挙げております。KPI として【住宅セーフティネット登録戸数】と【リフォームに係る補助金交付戸数】の 2 項目を設定しております。

次に 27 ページの「上下水道」の分野のうち、まず上水道に関してですが、重点テーマ 1 として、「災害に対して強靱な水道施設の整備」を掲げ、KPI として【基幹管路の耐震管率】を 2028 年度 25%とする目標値を設定しております。

最後に 31 ページ、下水道に関してですが、重点テーマ 1 として、「生活排水の水質向上」を掲げ、主要な施策として、小型合併浄化槽設置による水質向上を挙げております。KPI として【汚水処理人口普及率】を 2028 年度 51.9%とする目標値を設定しております。

以上、基本政策 1 の説明といたします。内容につきまして御審議のほどよろしく願いいたします。

【箕島会長】

ありがとうございました。それでは、ただいまの説明について、御質問、御意見をお受けいたします。御意見のある方あるいは御質問のある方は、挙手をお願いいたします。

【青木委員】

基本政策 1 に「災害に強く安全・安心な阿南」の創生を一丁目一番地に持ってきていただいたことに感謝を申し上げます。また、序論の説明の中の 19 ページにある、本市を取り巻く社会情勢の中の「南海トラフ地震対策」においても、基本政策 1 の重要性が非常に出てきているのではないかと考えています。

基本政策 1 の重点テーマ 1 の重要な施策に関して、「緊急避難場所・避難所整備」を 1 番に持ってきていただいています。災害に対しては、避難所の中でも特にトイレ、キッチン、ベッドの TKB48 という、それらが 48 時間以内に避難所に届くというような施策の方向性でお願いしたいと思っています。体育館の空調設備も県と市が連携して、予算を取り、推進していただいていると考えています。県施設の方も進んでいるとお伺いしています。私も 1.5 次避難所の現場に派遣で行きましたけれども、市の避難所、特に体育館等の空調については、今の自然環境において、やはり寒い時は暖かい体育館、暑い時は涼しい体育館が必要だと考えておりますので、ぜひとも推進をお願いします。

それと同時に、災害時の協力井戸について、阿南市は先駆的に先般から取組をいただいています。阿南市内は水源がたくさんありますので、井戸をもっと PR をして、ぜひとも進めていただければと考えています。

また、重点テーマ 1 の KPI の指標について、【避難所（体育館）の空調整備率】が非常に分かりやすく、よく精査されていると考えています。

3 ページの「事前復興計画」について、先般、阿南高専の多田教授の下で事前復興シンポジウム等を開催させていただいています。ぜひとも、現在の徳島県で策定中の徳島県事前復興計画策定ガイドラインに沿った事前復興計画を進めるしかないと考えていますので、進めていただきたいと思っています。それと同時に、阿南高専での取組とコラボして市民醸成、防災啓発醸成を高めていただければと考えています。

最後にもう一点、「災害時避難行動要支援者名簿の整備及び個別避難計画策定の推進」について、私も高齢福祉が専門でございしますが、要配慮者に対してなかなかできていないのは事実だと考えています。ぜひとも危機管理課、地域共生推進課等々がしっかりと災害時の個別避難計画等の作成を進めていただければと思います。それと同時に住民主体による避難所運営について、これも先般、阿南第二中学校で大規模な訓練をしていただきました。また、阿南市社会福祉協議会には福祉避難所の開設の訓練もしていただいています。ぜひとも、文言の中に福祉避難所が入っていないので、その点をどのようにお考えなのかお答えいただければと思っています。

空調整備の進捗率も、もしお答えできるのであれば御回答いただければと思います。

【平井副市長】

阿南市の災害対応力向上に向けて、今回の案を基にして様々な角度から御意見をいただきまして、本当にありがとうございます。心強い限りでございます。お話にございました福祉避難所も多く指定しているところでございます。今回その大切なキーワードが入っていないというのはごもっともでございますので、しっかりと位置づけてまいりたいと思っています。意味合いとしては、避難所の充実、環境改善でそれを確認して訓練をしっかりとやっていくという中に入れていたつもりでございますが、よりはっきりと書いていく必要があると思います。

さらに、御指摘がございました個別避難計画を策定して行く上で、重要な受け皿とし

て福祉避難所があると思いますので、そのような観点からも位置づけたいと思います。

また、空調整備について、阿南市はまだ手付かず状態でした。お話のとおり、徳島県も積極的にということで、県立学校はすべて入れていくということになっていきますので、ぜひ歩調を合わせて進めていきたいと考えていますが、一気にというわけにはいかないため、戦略的に数値目標を定めて、今回の一丁目一番地の KPI に置かせていただいているところでございます。

【中橋教育部長】

空調整備の進捗状況について御回答申し上げます。現在の指定避難所になっている小学校が 23 校、中学校が 10 校の計 33 校を想定しています。副市長が申しましたように、一度にすべての空調を整備することは困難であり、予算の平準化もございまして、計画に基づいて 1 年に 4 校程度ずつ進めていきたいと考えています。2025 年から設計を開始しまして、目標の 2028 年度には 12 校程度ということで 36%程度まで進捗することを想定しています。

【和田委員】

青木委員からもお話がありました、「災害時避難行動要支援者名簿の整備と個別避難計画策定の推進」について、KPI の目標数値が 2028 年には 30%となっていますが、避難が必要な方は全員が救われるべきだと思っており、逆に言えば 70%は見捨てられるのかという違和感がありましたので、目標数値の見直し・再検討が必要ではないかと思います。

【中川危機管理部長】

KPI の個別避難計画の策定割合について、2028 年までに 30%と目標設定させていただいています。この設定目標について、今年度までの割合は、先般の実績報告の時に申し上げたところでございます。令和 6 年度については、特に優先して計画策定を進める事業として、医療的ケアを必要とする者の計画に注力し、実効性担保のため、計画策定から訓練の実施を含めた結果、今年度につきましては 1 件であり、時間を要しています。加えて、個別に相談となったケースについても、自己完結方式での作成を終えているところでございます。今回の目標値である 30%は、現行計画で設定している 60%があまりにも現実的ではなく、見直しておく必要があるため、徳島市が策定している令和 7 年度からの前期基本計画の目標値 30%を参考に設定しているところでございます。ただし、この 30%達成に向けては、年間約 130 件の作成が必要となっています。これが達成されることで、徳島市の目標値はもちろん、令和 5 年 12 月現在の県平均 23.8%も上回ることを考えています。現在、庁内関係課と連携し、市の在宅医療・介護連携支援センターと相談をさせていただきながら、福祉専門職による委託方式の進め方などを調整しているところでございます。

【和田委員】

理由は分かりましたが、高齢者や障がい者に携わる中で、数値目標だけではなく、すべての方が救われるように要支援者の把握をお願いしたいと思います。

【箕島会長】

32 ページの「生活排水の水質向上」について、汚水処理人口普及率の目標が 2028 年には約 52%となっています。半数は浄化処理せずにそのまま流すということでしょうか。

【事務局】

手元に資料はないですが、50%ぐらい単独処理浄化槽がまだあるのだと思います。

【箕島会長】

市町村によって違いますが、京阪神や東京・神奈川県各市・区では下水道普及率が 99%程度になっています。徳島県は、下水道普及率は低く、個別浄化槽を用いていると伺っています。市町村によっても差はありますが、この数字は気になります。なるべく普及率を上げる計画を立てるほうが良いと思います。

下水道普及率や公共料金（水道代など）、こどもへの助成、介護保険料などをまとめたウェブサイトがあります。転居（移住）される方、特に若い方々はそのようなウェブサイトを見て判断されていると思います。ついては、可能な限り改善されるほうがよろしいかと思います。

【平井副市長】

住環境の重要な要素として水処理があるということで、その指標で市内外の皆さんが住みやすさを測っているということをお指摘いただいたところでございます。

先ほどお話がございましたけれども、市の課題としては単独処理浄化槽からいかに合併処理浄化槽に変換していただくのかということに課題意識を強く持っています。従いまして、助成制度で工夫しながら周知し、使っていただけるように引き続き取り組んでまいりたいと思います。

また、汚水処理人口ということでは、公共下水のエリアも集落排水のエリアもございます。そちらの接続の維持や接続率を上げていくということで、この数値を設定していますので、そこもより一層努力していく必要があると認識しています。

【美濃委員】

今のお話に関連して、私は、加茂谷地区に住んでいます。大阪から移住してきて 12 年目ですが、驚いたことは、台風の時に停電すると、その時に水も止まってしまうことです。市水道が来ておらず、井戸水で生活していますが、停電になるとモーターで組み上げてタンクに貯めることができなくなってしまいます。

水はとても大切なものなので、市議会議員さんにもお願いしたことがありますが、市の方としては市水道を引くのにとてもお金が必要とのことでした。ある地域では、何年も地域の人が集まって市水道を引いてほしいと要望しているという話も聞いています。

もし、災害があった時に市水道が来てない地域はどうなるのかということもありますし、昔から住まれている方やその土地を愛して生活している人たちもいますので、そのあたりを考えてあげてほしいと思います。

【紅露委員】

今の水道の件に関して、水質基準適合率が 100%となっていますので、期待しています。

【柏木水道部長】

市の水道部といたしましても、市内全域に上水道が引けたらいいと考えていますが、それができてない現状でございます。1日も早く、皆様方に安心安全で水を供給できるよう一層努力したいと思っています。

災害時については、応急給水が市内全域、各拠点施設まで駆けつけますので、安心していただければと思います。

【箕島会長】

水道法に基づく水質基準とありますが、昨今の報道では例えば PFAS が問題になっています。水道法では多分これらの化学物質は規定されていないかと推測します。PFAS に限らず、新たな化学物質問題が出た時点で、迅速に対応するという方向性を入れるほうが良いと思います。

【紅露委員】

桑野には保育所も小学校もあります。以前、保育所のこどもがうがいをしようとしたときに、水が濁っているということを先生から電話で言われました。また、地域の何軒かの人から電話で「家のお風呂に入ろうと思っていたら、泥水が出てきた。」と言われ、確かめると何度か泥水でした。到底入れるような水ではないです。夜勤の方などから、桑野には住めないとも言われる。桑野は災害に強く、とてもいい町です。それなのに、水のために住めないと言われて、住民たちがつらい思いをしています。市の方でもいろいろと考えていただいていると思いますけれども、私たちの希望として、こどもたちを安心・安全に学校に通わせられるような状態にして欲しいと思っています。

【柏木部長】

水が不安だというお話がありましたが、桑野地区は桑野簡易水道として、民営で水道事業を行っています。現在、桑野簡易水道から移管の手続きの申し込みがございまして、移管に向けて進めているところでございます。近々に、阿南市の上水道の方に移管できればいいと思っております。

【箕島会長】

基本政策1については、以上といたします。

次に基本政策2について、事務局より説明願います。

【事務局】

基本政策2の資料をお開きください。

基本政策2は「「地域産業が伸びゆく阿南」の創生 ～多様な産業が元気いっぱい
のまちに～」で、まちづくり分野は「農林漁業」、「工業」、「商業」、「雇用環境」の4つの分野で構成しており、KPI 数は18個となっております。本市の1次産業振興に関する施策、バッテリーバレイ構想やエコノミックガーデニングの推進による企業誘致や地元企業の活性化などの重点テーマを掲載しております。

まず始めに、「農業・林業・漁業」に関してですが、2ページの重点テーマ1として「生産力の向上と環境負荷に配慮した農業の推進」を掲げ、主要な施策として、「認定農業者制度の活用による農業の担い手・後継者対策の推進」や、「環境負荷低減事業活

動の推進」など、5項目を挙げております。KPIとして、【新規認定農業者数（累計）】と【補助事業者数（累計）】の2項目を設定しております。ここで数値の訂正箇所が2箇所ございます。補助事業者数の2028年度目標値が40事業者となっておりますが、41事業者に訂正をお願いいたします。

また次の3ページ一番下のKPIとして、【放置林整備事業実施面積（累計）】で2028年の目標値が170haとなっておりますが、正しくは190haでございますので、恐れ入りますが、訂正をお願いいたします。

次に4ページの重点テーマ4として「持続可能な漁業経営と海洋資源の保全」を掲げ、KPIとして【種苗の放流量】を設定しております。

重点テーマ5として、「地域資源の利用促進」を掲げ、KPIとして【有害鳥獣の食肉（ジビエ）としての有効活用頭数】を設定しております。

次に、「工業」についてでございます。重点テーマ1として「既存企業の振興」を掲げ、主要な施策として、「企業の安定した操業継続・拡大の促進」、「工業用水の安定的な確保と高速道路ネットワークの早期整備の推進」の2項目を挙げております。KPIとして【阿南市工場設置奨励条例による指定工場の新規件数】と【市内主要企業で働く従業員数】の2項目を設定しております。重点テーマ2として、「新たな企業誘致の促進」を掲げ、主要な施策として、「企業誘致活動の推進」や「工業団地（用地）の確保」など、4項目を挙げております。KPIとして、【企業誘致等の件数】を設定しております。

次に9ページ、「商業」についてでございます。重点テーマ1として、「エコノミックガーデニングの推進による地元中小企業の育成と活性化」を掲げ、主要な施策として中小企業の経営に関する支援など3項目を挙げております。KPIとして、【中小企業・小規模事業者の創業及び経営等相談件数】と【企業訪問によるヒアリング調査件数】の2項目を設定しております。

最後に12ページ、「雇用環境」についてでございます。重点テーマ2として、「安定的な雇用に向けた支援」を掲げ、主要な施策として、「若者の就労及び定着にむけた支援」や、「高齢者、障がい者及び女性の雇用の場の確保」など3項目を挙げております。KPIとして、【就労相談の実施件数】と【阿南市シルバー人材センター会員数】の2項目を設定しております。

以上、基本政策2の説明といたします。御審議のほどよろしくお願いいたします。

【箕島会長】

ありがとうございました。それでは、ただいまの説明について、御質問、御意見をお受けいたします。御意見等がある方は、挙手をお願いいたします。

【兼松委員】

6ページの現状と課題に「徳島バッテリーバレイ構想」について書いてあり、基本的な方向性には、「企業用地の確保」、「誘致活動」、「理工系人材の育成」等について積極的に取り組むことを書かれています。現在阿南市は、辰巳工業団地、王子製紙、大潟、橘と海沿いの工業団地が多いですが、これから内陸型の工業団地として徳島バッテリーバレイ構想や、県とのすり合わせも必要だと思いますけれども、新しい工業団地を県に要望して市が独自に確保するというビジョンがありましたら教えていただきたいです。

また、7 ページ目の【市内主要企業で働く従業員数】について、2023 年現在が 9,350 人ということですが、私の感覚ではもっと多いような気がします。この数字がどこから出てきたのか教えていただけたらと思います。

また、12 ページの「雇用環境」について、阿南市内の企業の 99%近くは中小小規模事業者です。なかなか働いている方の福利厚生も行き届かずに、どうしても今の人材不足の時代には新卒、中途採用の方もなかなか取れない状況です。どの企業でもやはり高齢者の就労に力を入れています、若年労働者の確保についても問題になっています。

以前は、阿南市勤労青少年ホームがありました。そこでは、仕事が終わった後に集まってスポーツや料理教室、英会話など文化活動を行っていたと思います。現在は、勤労青少年ホームがなくなり、中小企業の働いている若年労働者の仕事が終わった後の福利厚生、スポーツや文化活動等がなくなっていますが、市として、阿南市で働いている方の福利厚生に結びつくような新しいビジョンがありましたら、お聞かせいただけたらと思います。

【吉岡産業部長】

1 点目の企業誘致の点について、現在はこれといって工業団地というものは想定していない状況です。現在、徳島県がバッテリーバレイ構想を策定して、阿南市でもその構想を推進するためのプロジェクトチームを立ち上げています。県が誘致活動を行っていただいているが、市としては受け皿の整備ということで、市有地を工業用地として売れる可能性があるような用地を選定しているところでございます。また、金融機関等とも企業誘致に関する連携協定を結んでおり、金融機関からの情報提供もいただけるようお願いしているところでございます。

2 点目の従業員数について、辰巳工業団地の 8 事業所、大湊新浜工業団地の 6 事業所、それ以外の市内主要企業 9 事業所の計 23 事業所の就労人数となっています。

【兼松委員】

橘町や大湊町の四国電力、電源開発、新日本電工も含まれているのでしょうか。

【吉岡産業部長】

市内主要企業として含まれています。

最後に若者の福利厚生について、現在、市では就労相談やハローワークと連携して就職促進協議会、雇用対策協定運営協議会での情報共有を行っていますが、実際には、徳島の勤労者福祉サービスセンターに、勤労者福祉事業を行う団体がありますので、こちらに対する加入促進等を行っているところでございます。

【兼松委員】

中小企業は、若年労働者の福利厚生ということまでなかなか予算が回らないところもありますので、もし、市として以前ありました勤労青少年ホームのような形で、阿南市の中小企業で働く労働者が仕事終わった後に、スポーツ活動や文化活動、習い事等が学べるような場を設けていただけるようでしたらお願いできればと考えています。よろしくお願いします。

【箕島会長】

先ほどの主要企業数について、主要企業がどのようなものかというコメントを書くほうが良いと思います。例えば従業員数が何人以上などの基準で主要企業としているのなら、その基準を明記するのはいかがでしょうか。

【中野委員】

漁業に関して、種苗の放流量はここ何年間で増えていますが、海水温の上昇等で海藻が磯焼け状態になっています。種苗の量を増やしても、育たない状況が各組合で増えてきていると思いますので、そのような面に関して、施策を考えてほしいと思います。種苗の放流もこれだけ放っても、海藻がないと育たないため1割も残っていないと思います。

【吉岡産業部長】

総合計画では、水産資源の確保ということで種苗の放流を掲げていますが、たしかに水温の上昇や食害について中野委員がおっしゃっていただいたとおりですので、今後とも御意見をいただければ対応について検討していきたいと思います。

【箕島会長】

基本政策2については、以上といたします。

次に基本政策3について、事務局より説明願います。

【事務局】

基本政策3の資料を御覧ください

基本政策3は「「こどもまんなか笑顔あふれる阿南」の創生 ～子育て日本一のまちに～」で、まちづくり分野は、「出会い・出産支援」、「こども・子育て支援」、「学校教育」の3分野で構成しており、KPI数は11個となっております。出会いから結婚、出産、子育て、学校教育の各段階においてそれぞれ重点テーマを設定し、主に本市の少子化対策や子育て支援策を掲載しております。

まず始めに、「出会い・出産支援」についてですが、重点テーマ2として「充実した出産環境の構築」を掲げ、主要な施策として、「不妊治療費の助成」と「妊婦歯科検診の推進」の2項目を挙げております。KPIとして【妊婦歯科検診受診率】を2028年度30%とする目標値を設定しております。

次に、「こども・子育て支援」についてですが、重点テーマ1として、「すべてのこどもと子育て家庭への支援」を掲げ、主要な施策として、「子育て家庭への経済的支援」や「地域における子育て支援の充実」など5項目を挙げております。KPIとして【「阿南市は子育てがしやすいところだ」と思う保護者の割合】を2028年度85%とする目標値を設定しております。

次に、「学校教育」についてですが、重点テーマ1として、「自ら学ぶ力を育てる教育の推進」を掲げ、主要な施策として「確かな学びを育む教育の推進」や、「ICTを活用した教員の指導力の向上」など、6項目を挙げております。KPIとして、【「授業で学んだことを生活の中で活用しようとしている」と答えた児童生徒の割合】と【ICTを活用した教育によって、授業がわかりやすくなったと感じる児童生徒の割合】の2項目を設定しております。次に、重点テーマ4として、「安全で安心して学べる教育環境の整備」を掲げ、KPIとして【学校グラウンド照明LED化率】と【学校照明設備LED化率】

の2項目を設定しております。

最後に重点テーマ5として、「地場産物を活用した学校給食の推進」を掲げ、KPIとして、【地場産物の使用割合】を2028年度55%とする目標値を設定しております。

以上、基本政策3の説明いたします。御審議のほどよろしくお願いいたします。

【箕島会長】

ありがとうございました。それでは、ただいまの説明について、御質問、御意見をお受けいたします。御意見等がある方は、挙手をお願いいたします。

【青木委員】

防災教育について発言をさせていただきます。7ページの現状と課題の中で「自ら考え行動し、自分の命を自分で守る力を身につける防災・安全教育の推進」について書かれています。基本政策の学校教育の観点として、総合計画で防災教育の重要性を認識していただいていると感じました。

8ページの重点テーマ1の「自ら学ぶ力を育てる教育の推進」の観点で、防災・安全教育の推進に関しまして、「防災・安全に対する児童生徒の知識習得と教職員の防災意識・危機管理能力の向上を図る」と記載されています。お伺いしたいこととして、児童生徒の防災力向上については、阿南市においても橘小学校や津乃峰小学校をはじめ、防災甲子園で賞を取るなど、防災教育がこの10年でかなり進んでいると考えています。その中で、教職員について、負担が増えるなど非常に難しい話にもなりますが、学校現場で防災を知っている教員がいるかないか、それによって避難する・避難しないを判断するバランスが変わります。これは東日本大震災の大川小学校の件で現れたと考えています。教職員に対しての防災教育の研修等について、現状どのようにされているかというのをお聞かせ願えたらと思っています。

また、11ページの重点テーマ4の「安全で安心して学べる教育環境の整備」にある、老朽化した学校施設の改修と改築に関して、南海トラフ巨大地震に備えるにあたって、現在、小中学校の再編が進んでいると思いますが、ぜひとも、安心・安全な立地と校舎の耐震化を考えていただきたいと思います。

ハード面の整備は、当然予算等がかかるものと考えています。デジタルもしくは予算の取得の手法を計画的にするべきと考えています。なぜなら、先ほどの序章の説明にもありましたが、南海トラフ巨大地震は今後30年以内に70%から80%程度、50年以内に90%となっています。その年数を今の小学生等に足すと、今の私と同じ世代として、上にも下にも責任を負うような社会世代になることから、必ず今の小中学生に対しては、防災教育は決して外してはいけない、そして力強くやるべきだと思っています。どうぞこの発言を阿南市のこの計画でお受け取りしていただければと思います。

【中橋教育部長】

学校再編に係る回答をさせていただきます。阿南市教育委員会では、学校再編実施計画を作りまして、計画の中で市内の小中学校を第1期、第2期、第3期と分けており、順次、再編の検討を進めていく段階にきております。その中で、学校をどこにするかということはおっしゃるとおり、重要な問題でございます。基本的には今ある学校を使うことを前提にしながら、老朽化等の課題もありますので、必要に応じて新しい校舎の検討というのも当然していかなければいけないと十分認識をしています。それに加え

て、耐震化について、現在の小中学生が学ぶ校舎は、耐震ができた校舎で学んでおりますので、それについては大丈夫ではありますが、再編にあたっては青木委員の意見を十分認識しながら今後計画を進めて行きたいと考えています。

【坂本教育長】

青木委員のおっしゃっていただいたように、阿南市内の小中学校における防災教育は、津乃峰小学校、橘小学校の両校を中心に、全体的に引っ張り上げている現状でございます。特に、教職員の防災意識・危機管理能力の向上ということで、現在の研修の状況ですが、各学校において、毎年防災等の研修は行っており、安全教育の部会でも系統的に研修を行っています。また、各地区の防災士さんをお招きして、いろいろなお話をさせていただいたりしています。私自身も、校長会で今年したことプラスアルファ何かを積み上げていくということを学校の実情に応じてお願いしているところでございます。

ただ、より系統的に抜かりがないように、今後とも教職員の防災意識向上に努めていければと思っておりますので、今後ともお力添えいただければと思います。どうぞよろしくお願い致します。

【新居委員】

12 ページにある「地場産物を活用した学校給食の推進」について、学校給食の中で地域のものを活用していただくことはとてもありがたいことであり、学校給食を食育としていく考え方はとても素晴らしいと思います。

それと同時に、5 ページに「3～5 歳児の給食費又は副食費の無償化」と挙げられていますが、以前も発言させていただきましたが、小学校、中学校の学校給食の無償化もさらに検討していただいて、いい方向に向かっていければと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

【中橋教育部長】

学校給食費の無償化について、現在、阿南市では米などの物価高騰分につきまして先行的に支援をさせていただいている状況でございます。その上で、学校給食の無償化につきましては、恒久的な財源の確保も重要でございますので、国の動向等を見ながら併せて検討しているところでございます。

【美濃委員】

8 ページの「自ら学ぶ力を育てる教育の推進」について、徳島県初の小規模特認校制度を吉井小学校で導入するという事で、イノベーションスクールの教育プランを教育委員会が地域住民と考えながら提案してくれていますが、なかなか子どもたちが自身が、自ら学んでいくことはとても難しいことだと思います。

今まで教科書の内容をつめこむような勉強をしてきた子どもたちに、探究学習の中で自分たちの課題を見つけ、グループワークで解決していくことはハードルが高いことだと思います。そのため、それを支えてくれる教員の方々が大切ですし、教員の方々もとても戸惑うと思うので、教員を育てるスーパーバイザーの設置も必要だと思いますので、ぜひ考えていただきたいと思います。

また、コミュニティスクールについて、学校の管理職、教職員、保護者に加えて、地

域の人々、公民館の方や社会福祉協議会の方、スポーツ協会、民生委員などいろいろな民間団体や、企業、高校生、大学生も交えて組織を構築するのはとても難しいことだと思います。そのため、誰がイニシアチブを取って旗を振るのがとても大切で、リーダーになってくれる人が必要ではないかと思います。教育委員会もそれぞれの部署で頑張っていってほしいのは存じていますので、コーディネーターの設置のような形で、民間や専門家の力も借りてはどうかと思います。なかなか予算がないことは認識していますが、そこはぜひ考えていただきたいと思いますし、その学校づくりが1つのモデルケースになって、阿南市全体の教育レベルが高まっていければと思っています。

【中橋教育部長】

小規模特認校制度については、吉井小学校の保護者のPTAをはじめ、皆さんといろいろな場面を通じまして、あるべき姿を考えながら計画を進めているところです。その一方で、教員がどのようにすれば、イノベーションスクールの成功につながるのかということはもう1つの大きな課題になっています。先ほどの教員の研修の話にもつながりますが、めざす姿をしっかりと教育委員会から地元の小学校に伝えて、教育委員会と地元の小学校の教員が一緒になって今年1年かけて、校区外からも来たいと思える学校を作り上げるために一生懸命進めているところですので、ぜひ御協力いただきたいと思います。

【箕島会長】

重点テーマ4の「安全で安心して学べる教育環境の整備」について、KPIが【学校グラウンド照明LED化率】となっていることが気になります。別の指標のほうが良いと思います。グラウンド照明のLED化と教育環境の安全・安心は関係が薄いと思います。要は、グラウンド照明をLED化して、スポーツの時にケガしないようにするよりも、安全で安心な教育のために重要なことがあるのではないかという意味です。仮に、グラウンド照明をLED化することにより、ケガのリスクを低減することを意図されているとしても、安全・安心な教育環境を達成するための、より重要な施策があると思います。

例えば、対南海トラフ巨大地震対策も教育環境の安全・安心を担保するうえで重要ですが、これに加え大雨による洪水、土砂崩れ等の際に児童・生徒の安全を確保すること、災害時の停電を極力短くして、児童・生徒のストレスを可能な限り低減させる、こういった施策のほうが、グラウンド照明のLED化よりも重要と思います。

【箕島会長】

基本政策3については、以上といたします。

次に基本政策4について、事務局より説明願います。

【事務局】

次に基本政策4の資料を御覧ください

基本政策4は「「健康でひとに優しい阿南」の創生 ～誰ひとり取り残さない共生のまちに～」で、まちづくり分野は、「健康づくり・地域医療」、「地域福祉」、「障がい者福祉」、「高齢者福祉」、「社会保障」、「人権・男女共同参画」の6分野で構成しており、KPI数は20個と2番目にボリュームが大きい項目となっております。誰ひとり取り残さない共生のまちの実現に向けた重点テーマを設定し、主に本市の福祉分野に

関する施策などを掲載しております。

まず始めに「健康づくり・地域医療」の分野についてですが、重点テーマ1として「体と心の健康づくりの推進」を掲げ、主要施策として、「健康づくりの周知・啓発」や「母子保健の充実」など4項目を挙げております。KPIとして【歯周病検診受診率】を2028年度11.8%とする目標値を設定しております。

次に4ページ、「地域福祉」の分野についてですが、重点テーマ1として「誰一人取り残さない包括的支援体制の整備」を掲げ、主要な施策として、「相談支援ネットワークの構築による相談支援体制の強化」など3項目を挙げております。KPIとして【地域まるごと支援会議延べ実施回数】と【徳島家庭裁判所阿南支部における後見等開始審判の件数】の2項目を設定しております。重点テーマ2では、「つながり支え合える地域づくりの推進」を掲げ、主要な施策として、「生きがいを持って社会参加できる支援体制の推進」や、「多様な主体による地域貢献活動の推進」など5項目を挙げております。KPIとして【参加支援プランの策定件数】と【阿南市こども食堂登録箇所数】の2項目を設定しております。

次に「障がい者福祉」についてですが、重点テーマ2として、「障がい者が安心して暮らせる環境の整備」を掲げ、主要な施策として、「障がいがある人への災害対策支援」など4項目を挙げております。KPIとして、【手話奉仕員養成研修受講者数】と【医療的ケア児の個別避難計画策定数】の2項目を設定しております。

次に、「高齢者福祉」についてですが、重点テーマ2として「地域包括ケアシステムの深化・推進」を掲げ、主要な施策として、「地域包括支援センターの機能強化」や「買い物支援等生活支援サービスの充実」など5項目を挙げております。KPIとして、【認知症カフェの設置数】を2028年度に10箇所とする目標値を設定しております。

次に、「社会保障」についてですが、重点テーマ1として「社会保険制度の適正な運用、国民年金制度の啓発」を掲げ、KPIとして【国民健康保険加入者における特定健康診査受診率】を2028年度に45.1%とする目標値を設定しております。

最後に、「人権・男女共同参画」についてですが、重点テーマ2として「女性の政策・方針決定過程への参画」を掲げ、KPIとして【市の附属機関における女性委員比率】を2028年度に35%とする目標値を設定しております。

以上、基本政策4の説明といたします。御審議のほどよろしくお願いいたします。

【箕島会長】

ありがとうございました。それでは、ただいまの説明について、御質問、御意見をお受けいたします。御意見等がある方は、挙手をお願いいたします。

【和田委員】

9ページの【医療的ケア児の個別避難計画策定数】について、目標は6件となっておりますが、これは何件中なのか教えていただければと思います。先ほども言いましたが、すべての方が策定されるべきだと思っていますので、数が多ければいいということではないと思います。件数ではなく100%を目標としてほしいです。

また、高齢者福祉の部分について、私自身が携わっているため思っているだけかもしれませんが、災害や地域活性に関する基本政策の部分に比べると、内容が少ないように思います。少子高齢化だからこそ、高齢者福祉に力を入れていただきたいと思います。

【荒井保健福祉部長】

医療的ケア児の人数について、徳島県医療的ケア児等支援センターからの情報提供により、昨年末の時点で6名の児童を把握しています。従いまして、6名の児童すべてに対応するよう目標を掲げています。割合は100%でございます。

【米田委員】

9ページの「障がい者が安心して暮らせる環境の整備」の中に、「手話言語の普及・障がいの特性に応じた意思疎通手段の利用の促進」とあります。特に行政職員の方は手話も非常に重要だと思いますが、現在、市職員で手話を介せる方はどのくらいいるのでしょうか。

また、要望として、4ページの地域福祉の現状と課題の中に、「社会から孤立し生きづらさを抱える人が増加」という文言があります。少子高齢化で地縁組織のつながりが薄くなったことやコロナ禍もあって、孤独・孤立の問題は非常に深刻化している状況だと思います。昨年4月に孤独・孤立対策推進法が施行されていますが、その中でも孤独・孤立の問題は個人ではなく社会の問題であり、当事者やその家族の生きがいづくり、また居場所づくりなどを社会全体で進めていくことが重要であると書かれています。

阿南市においては、多様な機関と連携をしながらより一層の取組をお願いしたいと思っています。

【荒井保健福祉部長】

手話言語ができる職員について、手話言語の団体に入っている職員を1名把握しています。その他にも手話言語ができる職員が何名かいるとは聞いていますが、確実に把握しているのは1名でございます。

【米田委員】

日頃の行政運営だけでなく、災害時にも手話を介せる方が非常に重要だと思いますので、それを自前である程度、養成することも必要ではないかと思います。職員の方も、簡単な言語で構いませんので、最低限の手話で意思疎通できるようになってほしいと思います。

【箕島会長】

手話を覚えなくても手話による会話を助けるソフトウェアがあると思います。職員全員が一から手話を使えるようになるのは大変だと思います。これからは情報技術の力を使って、職員の方に負担をかけずに意思疎通ができるような方向に移れば良いと思います。

たしかに災害時の意思疎通は重要で、職員全員がそのようなものを使えれば対応できますので、市の方でも考えていただければと思います。

【米田委員】

私としましては、簡単な「はい」「いいえ」くらいはできるようになってほしいと思っています。窓口に来て、何を求めているのかわからないというようなことでは困りますので、その人が手話を介せるのかどうかということも難聴者の方に伝える必要があると思います。簡単なことは手話で、難しいことはアプリでできるようになったらいい

と思います。

【荒井保健福祉部長】

阿南市では手話言語も非常に重要と捉えておりまして、3月議会に手話言語条例を上程する予定です。その中で、市が何をしていくかを明確に位置づけまして、今後、手話を意思疎通手段の1つとして明確にすることによって、市職員だけではなく民間企業においても、手話言語による意思疎通が図れるように努めていきたいと考えていますので、御理解をよろしくお願いいたします。

【新居委員】

21 ページの「困難な問題を抱える女性への支援」とありますが、DV や性暴力が女性だけでなく、最近では男性も女性に同じようなことをされて苦しい、でも問題を相談するところがないということも耳にします。そのため、ここを女性と決めてしまうのではなく、何かいい表現ができればと思います。

【田中市民部長】

新居委員がおっしゃったように、男性のDV 被害等々の問題があることは認識しています。阿南市配偶者暴力相談支援センターでは、男性の方から相談があった場合は、徳島県の相談・支援の窓口や警察など適切な機関につないでいます。

【片山委員】

11 ページの「高齢者の社会参加の促進による地域づくり」について、私自身、自治会の会長と民生委員をしている中で、高齢者の自宅を回っている時に、身分を伝えた上で訪問しようとしたところ「結構です」と断られました。それだけコロナ禍を機に、地域の交流もなくなり、孤独が浮き彫りになってきていると思っています。

このKPI を見ても、通いの場のグループが2019 年から2023 年かけて減っている中で、2028 年までにまた増えるのかなと疑問に思います。通いの場やどこかに集うという地域の支え合いのあり方も、今後少しずつ考え方を変えていく方がいいのではないかなと思います。

【西岡委員】

16 ページの現状と課題で、インターネット上での人権侵害が厳しい状況が続いているということで、阿南市としてインターネットでの人権侵害、特に部落差別等の状況把握も必要ですが、今後どのような対策を取ることを考えられているのでしょうか。

【田中委員】

インターネット上の人権侵害の問題は、SNS 時代になり多くみられるようになっていきます。今までは職員等がネットサーフィンをして見つけた場合に削除要請することをしていましたが、それも限界があるということで、来年度からは専門的にしている団体に委託して、対処していただくという形で取り組んでいきたいと考えています。

【西岡委員】

共に取り組んでまいりたいと思っております。

【和田委員】

繰り返しになりますが、先ほどの医療的ケア児の目標について、件数ではなく、パーセンテージの方がいいと思うので検討していただけたらと思います。人数が増えることも考えられる中で、全員が安全・安心に避難できる計画という意味では100%という記載の方がいいのではないかと思いますので、御検討いただければと思います。

【箕島会長】

14 ページの社会保険制度に関する KPI の指標として、「国民健康保険加入者における特定健康診査受診率」が2028 年で約 45%という目標を掲げられていますが、国民健康保険には市もお金を出していると思います。

特定健診で早期に病変が発見できれば、医療費も安くなり、健康寿命も長くなるという相乗効果が生まれるので、受診率の目標値を可能な限り高く設定するほうがよいと思います。

併せて、別件ですが、日本人の塩分（ナトリウム）摂取量はかなり多く、これが原因となる高血圧などの成人病が問題になっています。イギリスでは加工食品の塩分量を徐々に下げることにより、無理なく塩分摂取量を低下させ、ナトリウムに起因する病気の罹患を下げたとかかなり前に報道されていました。また、長野県では給食でそのような取組をして効果をあげていると伺ったように思います。また、野菜など、カリウムを多く含む食品を摂ることにより、塩分量を下げなくても Na 摂取量を低減したのと同じ効果を得ることができるそうです。このような啓発活動を行うことにより市民の方々の健康寿命を延ばすと同時に国民健康保険の負担も低減することができます。このような視点も施策を入れると良いと思います。

【箕島会長】

基本政策4については、以上といたします。

次に基本政策5について、事務局より説明願います。

【事務局】

次に基本政策5の資料を御覧ください。

基本政策5は「「歴史・文化とスポーツでにぎわう阿南」の創生 ～地域の誇りが交流を生むまちに～」で、まちづくり分野は、「スポーツ」、「生涯学習」、「歴史・文化」、「公園・緑化」、「観光」、「交流」の6分野で構成しており、KPI 数は16 個となっております。本市が誇る歴史文化や、野球、SUP といった地域の資源を生かしたスポーツツーリズムの推進、これに伴う関係人口の創出・拡大、また市民の生涯学習活動の推進といった重点テーマを設定し、本市のにぎわりづくりにむけた施策などを掲載する内容となっております。

まず始めに「スポーツ」についてですが、重点テーマ1として、「生涯スポーツ振興と地域スポーツ振興の推進」を掲げ、主要な施策として、「スポーツに関する幅広い情報提供の推進」や、「スポーツ環境・施設の整備促進」など5項目を挙げております。KPI として、【総合型地域スポーツクラブの会員数】を設定しております。

次に、「生涯学習」についてですが、重点テーマ1として「多様なニーズに応じた生涯学習活動の推進」を掲げ、主要な施策として「公民館活動の推進」や、「生涯学習情

報の提供の拡大」など6項目を挙げております。KPIとして【公民館の稼働率】を2028年度30%とする目標値を設定しております。

次に、「歴史・文化」についてですが、重点テーマ2として「歴史・文化資源の調査・保存活用と継承」を掲げ、主要な施策として、「国史跡若杉山辰砂採掘遺跡整備事業の促進及び積極的な公開活用」など2項目を挙げております。KPIとして【指定等文化財の保全・活用団体数】を2028年度4団体とする目標値を設定しております。

次に、「公園・緑化」についてですが、重点テーマ1として「公園施設の整備」を掲げ、主要な施策として、「公園における防災機能の強化」や「公園の利用促進」の2項目を挙げております。KPIとして【公園緑地で実施するイベントでの利用件数】を2028年度40件とする目標値を設定しております。

次に、「観光」についてですが、重点テーマ1として、「地域資源を生かしたスポーツツーリズムの推進」を掲げ、主要な施策として、「スポーツツーリズムによる産業振興、地域の活性化、交流、関係人口の創出・拡大」など2項目を挙げております。KPIとして【スポーツイベント等参加者数】と【スポーツツーリズムの経済効果額】の2項目を設定しております。

最後に、「交流」についてですが、重点テーマ1として「関係人口の拡大・UIJターン促進による地域経済好循環の実現」を掲げ、主要な施策として、「地域資源を生かした関係人口の創出・拡大による持続可能なまちづくりの推進」や、「移住交流支援センターを中心としたUIJターンの促進」など、7項目を挙げております。19ページ、KPIとして【阿南市版ふるさと納税による寄付総額】と【県外からの移住者数】の2項目を設定しております。

以上、基本政策5の説明といたします。御審議のほどよろしくお願いいたします。

【箕島会長】

ありがとうございました。それでは、ただいまの説明について、御質問、御意見をお受けいたします。御意見等がある方は、挙手をお願いいたします。

【小笠原委員】

文化行政について、阿南市は比較的、他県、他市町村と比べて頑張っていると評価しています。若杉山を契機にして、8ページの現状と課題の中に「学べる拠点づくり」が必要と書かれていますが、具体的に計画があるのかお聞きしたいと思います。

以前、市町村合併等に伴う補助金の活用として、国から補助が出るということで、阿南市に博物館を作ってほしいと1度陳情したことがあります。取りやめになっています。小さな市町村でも、伝統やこどもたちへの普及等を考えて、地域の特性を生かした博物館を作って、それを文化だけではなく教育などいろいろな面で活用しているわけですが、この拠点づくりに関して少し弱いと感じています。

その点、具体的なことがあるのか構想をお聞きできればと思います。

【田中市民部長】

博物館の構想は現在のところございません。ただ、先ほどありましたように、国指定史跡を含めた文化財を通してということで、来年度から若杉山辰砂活用整備事業として、5年をかけて遺跡の整備を行っていきます。その中で、遺跡の整備と積極的な公開により、人を呼び込むとともに郷土の歴史に関心を高める取組を実施するということに

なっております。

【小笠原委員】

拠点の1つとして若杉山でも地元の加茂谷地区の方が非常に頑張っていて、いわゆるビジターセンターのようなものを早く作って、地域としてもいろいろ活発に行動を起こしたいという意見もあります。できれば地域拠点のような構想も、ぜひ強力にしていきたいと思います。

それともう1つ、文化行政を担っていく専門家ということで、阿南市では数人の方が対外的に非常に活発に頑張っていますが、やはり人的パワーが弱いと強く感じています。ぜひとも、いろいろな拠点なり構想を推進する専門的な方の配置をお願いしたいと思っています。

【山本委員】

先ほどからの災害等と言いますと、公民館は災害時に避難所になります。これまで東日本大震災の視察にも行きましたし、吉備中央町、田辺町の災害があった地域に視察に行って、公民館でこのようなことがあったということを教えていただきました。

その中で、1番重要なことは館長が必ず来ることです。災害時には館長が来て差配しなければ、市職員では対応できないというのがほとんどの皆さんの意見でした。阿南市の場合、職員がいれば、館長は来なくていいというシステムになっているようです。これが正しいか正しくないかは、はっきりしませんが、可能であれば見直してほしいと思います。

もう1点、生涯教育として、高齢者の方に勉強やサークルをしてもらうことが公民館の活用だと思います。75歳は後期高齢者ということで、富岡地区は人口が8,400人いますが、そのうち後期高齢者が1,800人くらいいます。この方々に、安心して生涯教育の一環として、公民館を利用していただければありがたいのですが、75歳になっていない方でも、家でこもっている人がたくさんいます。このような方をどうにかできないかといつも考えています。公民館をもっと明るく利用していただけるような体制を作ってほしいと思っています。

【平井副市長】

御意見ありがとうございます。災害時における公民館の役割はおっしゃるとおりでございます。初動対応、避難生活の極めて重要な拠点でございます。今年度におきましても、南海トラフ地震の臨時情報で巨大地震注意が、初めて発表されたわけでございますけれども、その時にまず何かあったときは公民館に行ってくださいということで、阿南市としても発信させていただいたところでございます。

お話のあった、公民館の災害対応の場合の館長の役割について、今の規定では、市職員が避難所の開設にあたるということになっています。ただ、その開設、運営にあたっては、館長とも十分に意思疎通を図らせていただきながら、アドバイスを受けながら円滑に運営するように努めることを書かせていただいていると承知しています。

その上で、これまでの経験を踏まえて御意見をいただきましたので、今後の参考にさせていただきますと思います。

【中川委員】

スポーツ関係について、野球で例えますとアグリあなんスタジアム球場を利用して、各県から合宿等に来られたり、キャンプやイベント等もいろいろと開催していると思います。阿南市として、野球に限らず、サッカー、バスケット、いろいろなスポーツがあると思いますが、地域密着型のスポーツチームは現在考えていないのでしょうか。

【中橋委員】

地域密着型のスポーツクラブというところで、資料の2ページに総合型地域スポーツクラブの会員数の増加を見込むKPIを設定させていただいています。

この総合型地域スポーツクラブは、スポーツ種目に特化したものではなく、身近な地域でこどもから高齢者まで様々なスポーツを愛好する人々が集まるスポーツクラブという位置づけのものでございます。

これについて、阿南市では現在、3クラブあります。サンアリーナスポーツクラブ、Rex なかがわ、は一歩な長生が活動をしています。これらのスポーツクラブの会員数を増やすということは、生涯スポーツ、地域スポーツの振興に直接的に反映する指標であるということは、KPIの設定をしております。地域コミュニティの活性化にも寄与すると考えていますので、推進していきたいと考えています。

【中川委員】

少し説明の仕方が悪かったかと思いますが、私が言いたいことは、阿南市からプロ選手を作ろうということで、例えば、野球で言うと、徳島県はインディゴソックスというプロ野球チームを作りました。県外から募集をかけても就職先がないとなった時に、阿南市の商工会にも御協力いただいて、その会社に皆さんが就職するという流れにすると、人口も増えて、会社の人もその子を応援するようになったりします。せっかく野球のまちという看板を掲げて、いいグラウンドも設備も整っていますので、そのようなものを作ったらいいいと思いますし、野球に限らずいろいろなスポーツを地域密着型でみんながその選手たちを応援して、そこから有名選手を育てるという考えがあればいいと思います。

【箕島会長】

基本政策5については、以上といたします。

次に基本政策6について、事務局より説明願います。

【事務局】

基本政策6の資料を御覧ください

基本政策6は「「地域の個性ときずなが輝く阿南」の創生 ～持続可能で進化するまちに～」で、まちづくり分野は「コミュニティ」、「市民参画」、「広域連携」、「行財政運営」、「シティプロモーション」の5分野で構成しており、KPI数は15個となっております。市民がまちづくりに主体的に参加できる仕組みづくりや、市民協働のまちづくりの推進、また持続可能な行財政運営を進めるための行財政改革に関する重点テーマを設定し、本市が持続可能で進化するまちに向けた施策などを掲載する内容となっております。

始めに「コミュニティ」についてですが、重点テーマ1として「地域づくりを自ら考え自ら行う機運の醸成」を掲げ、主要な施策として「14地区の個性を生かしたまちづく

り」や、「那賀川地区複合施設の整備」など、6項目を挙げております。ここで数値の修正がございます。KPIとして【わが町予算活用団体数】を2028年度15件と記載しておりますが、正しくは14件ですので、恐れ入りますが訂正をお願いいたします。

次に、「市民参画」についてですが、重点テーマ1として「地域共生社会の実現に向けた市民協働のまちづくり」を掲げ、主要な施策として、「市民の声を取り入れた市政運営の推進」や、「こども若者による地域づくりの体制整備」など、4項目を挙げております。KPIとして【こども・若者による地域づくり参画人数】を2028年度30人を目標値として設定しております。

次に、「広域連携」についてですが、重点テーマ1として「定住自立圏構想の推進による南阿波定住自立圏域の活性化」を掲げ、KPIとして【県南1市4町の圏域人口】を2028年87,000人とする目標値を設定しております。

次に8ページ、「行財政運営」についてですが、こちらは総合計画の中間見直しと平行して策定作業を進めております、『行財政改革推進プラン2025▶2028』において、改革の5本柱として掲げる「組織・人員体制の最適化」「財政の健全化」「公共施設マネジメント」「スマート自治体の展開」「公民連携の推進」の5項目を、総合計画における行財政運営分野の重点テーマ、KPIとして設定するものです。まず、重点テーマ1の「組織・人員体制の最適化」について、主要な施策として「効率的な組織体制」への転換など3項目を挙げ、KPIとして【人口減少時代を見据えた職員数】と【会議体の統合数】の2項目を設定しております。重点テーマ2「財政の健全化」についてですが、KPIとして【実質公債費比率】と【当初予算編成における財政調整基金の取崩し額】の2項目を設定しております。次に重点テーマ3「公共施設マネジメント」について、主要な施策として、「未利用不動産の有効活用」や「公共施設の再編及び効率的な管理」など3項目を挙げ、KPIとして、【公共施設の総延べ床面積】を2023年度から8,000㎡縮減することを目標値としております。次に重点テーマ4「スマート自治体の展開」について、主要な施策として「行政サービスのデジタル化」など3項目を挙げ、KPIとして【行政手続きのオンライン申請可能手続き数】を100件以上とする目標値を設定しております。次に重点テーマ5「公民連携の推進」についてですが、主要な施策として「公共サービスの効率化と民間活用」など2項目を挙げ、KPIとして【民間提案制度による公民連携事業件数】を累計5件以上とする目標値を設定しております。

最後に「シティプロモーション」についてですが、重点テーマ3として、「市外での本市の知名度アップと誘客の推進」を掲げ、主要な施策として、「観光プロモーションの強化」や、「イメージアップキャラクターあななんを活用した観光PRの推進」など4項目を挙げ、KPIとして【市外での物販及び観光PR日数】を2028年度25日とする目標値を設定しております。

以上、基本政策6の説明といたします。御審議のほどよろしくをお願いいたします。

【青木委員】

12ページの重点テーマ4にある「スマート自治体の展開」について、「行政サービスのデジタル化」のKPIとして行政手続きのオンライン申請が可能な手続きを100件以上をめざすことは非常にいいことだと考えています。特に、阿南市の公式LINEは使い勝手がよくなっていて大変高く評価しています。LINEの画面からGIS、浸水域等が見られるのは防災行政のマニアとしては非常にわかりやすいと思います。ただ、このLINEに関しましては、本日の徳島新聞に先般の阿南ファミサポの記事が載っており、その時に実は

この公式 LINE を使った GIS の説明をしました。市民の皆さんは知らないように感じました。LINE で行政から情報は届きますが、それらの情報を生かすということが、市民の皆さんにはまだまだ浸透してないと考えています。特に緊急時、豪雨や台風時には阿南市からたくさんの LINE が送られてきます。その時に情報を読み取る手法について、防災に関しましては、今後、研修会等で市民の皆さんに周知することが必要であると個人的には考えています。

KPI の「行政手続のオンライン申請可能手続数」について、介護の世界でも最近はその自治体情報システムを使って、オンラインで電子申請をして、出張報告を求める手法がほとんどでございます。これは県だけではなく、国の研修会等においてもほとんどそのような形になってきていますので、ぜひとも、DX 時代にふさわしい市民向けのサービスの実現化については、積極的に進めたいと思います。

ただ1つ申し上げたいこととして、それが使える方はいいですが、使えない方々に対して、特に高齢者の皆さんに対して、紙などの媒体に関しては、転換期の時代だと思っており、そのあたりのリンクを市としてどうするのか、今後のスマート自治体の展開について、御意見をお聞かせ願いたいと思います。

【吉積企画部長】

デジタルの関係につきまして、今年度から LINE は必要な情報を受け取れるような形に変えましたので、御好評いただいているところと思います。

デジタルデバイドについて、お年寄りの方等難しい部分がありますが、今年度から「デジタルなんでも相談室」として公民館を回らせていただいて、御希望の方にデジタルを教える機会も設けています。その場で周知も兼ねて LINE 登録のお願いもしています。LINE の登録者数が増えるということは、それだけ市からの情報も届きやすくなるため、災害時にも大変有効なツールであると考えています。

【鈴江委員】

5 ページの「地域共生社会の実現に向けた市民協働のまちづくり」ということで、「こども・若者による地域づくり参画人数」の KPI で、KIZUKI など中高生の参画を指標にされています。私も KIZUKI に参画したことがありますが、非常に頑張っていると思っています。

私が言いたいことは、若者が地域と関わりを持つということは、福祉分野のみならず、あらゆる分野で非常に大事なことだと思っています。特に、中高生の時に地域と関わることで将来のふるさとの愛着につながって、若者の定住、将来の担い手の育成にとっても効果があると思いますので、子育て政策や学校教育、社会教育、あるいはこのような地域と関わる企業の職業体験等、若者が地域と関わる機会を提供することを市役所の各部署で常に意識し、施策を展開していただきたいと思います。

ここに書いてある指標は、福祉計画に関わっている KIZUKI を挙げていますが、実際にはもっと参画している若者の数は多いと思いますので、そのあたり市をあげて政策の1つとして取り組んでいただきたいと要望します。

【吉積企画部長】

こども時代に地域とつながるイベントや行事に参加することが将来の定住につながると言われていますので、これからもそのようなイベントをしていきたいと思っています。

す。

【紅露委員】

私たち婦人会はボランティア活動をいろいろとしています。敬老会や地域のイベントなど、こどもたちがボランティアで出てきてくれる場合もあります。

中学生のこどもから、高校に入る時にボランティア活動についての質問があるから何をしたらいいのかと聞かれて、地域のイベントに出たらいいと言ったことがあります。そこで、公民館で行われるイベントで、プログラムを出される時は一筆、中高生のボランティアを募集していることを入れていただいたら、より参加しやすくなると思いますのでよろしくお願いします。

【中橋委員】

各公民館には市職員がいますので、これからイベント等を開催する時には、いただいた御意見も参考にしながら作成していきたいと思います。

【箕島委員】

最後に2点、要望を申しあげます。1点めは、用語の説明リストを冊子の最後に付けるにあたって、全体を通して分かりにくい語句にダガー(†)あるいはアステリスク(*)などを付けることにより、それぞれの語句に用語説明があることが分かるようにすると良いと思います。

先の会議で申しあげたエコノミックガーデニングについても、元々はカルフォルニア大学の先生の著書で提唱した概念のようですが、この語句の初出部分に用語説明があることが分かる印をつけると、市民の方が冊子を読まれる際に理解が進むと思います。また、UIJ ターンも必ずしも一般用語ではないので、説明があるほうがよろしいかと思います。

2点めは、KPI に絶対量、すなわち数値あるいは件数を用いている箇所がありますが、市民の方がこの値を見たときに、市全体あるいは市民の生活の隅々までに影響を及ぼすような極めて効果が大きいものなのか、あるいはほとんど効果が見られないものであるのか判断が困難と思います。例えば、ある容量のエアコンで通常の住宅の部屋を冷やそうとしているのか、あるいは地球を冷やそうとしているのかのどちらかであるかが分かりにくいと思います。

対象のどの程度に波及する施策であるのかが分かるように、尤も対象が具体的に何であるかの記述は必要ですが、そのようなことが分かる記述に可能な範囲で改善されるようお願いいたします。

【箕島会長】

それでは、基本政策6で、全ての審議を終わりました。皆様からいただいた御意見を参考に取りまとめた上で、後日、私から市長に答申したいと思いますが、皆様いかがでしょうか。私にお任せいただくということによろしいでしょうか。

【委員】

異議なし。

【箕島会長】

ありがとうございます。これをもちまして、本日予定しておりました議題についての審議は全て終了しました。委員の皆様にはスムーズな議事進行への御協力及び貴重な御意見を賜り誠にありがとうございました。市におかれましては、本日各委員から出された意見を参考にいただき、計画策定作業を進めていただくようお願い申し上げます。

【七條企画政策課長】

箕島会長ありがとうございました。

委員の皆様も貴重な御意見、御提言ありがとうございました。

さきほど会長からお話がありましたとおり、本日の御意見を反映させていただき、基本計画について、近日中に答申を頂く予定です。

その後、この中間見直しをしました新しい総合計画の策定は、来月3月末を予定しております。冊子の完成は、6月頃を予定しており、委員の皆様には完成次第送付させていただきます。

委員の皆様におかれましては、今年度、大変お忙しい中、阿南市総合計画審議会委員をお引き受けいただきまして、3回にわたり、総合計画の中間見直しについて御審議をいただきまして、ありがとうございました。

では、閉会にあたりまして市長よりお礼を申し上げます。

【岩佐市長】

一言お礼を申し上げます。

本日の会をもちまして、阿南市総合計画の中間見直しに関する審議会は終了となります。委員の皆様には、昨年9月から計3回に渡りまして、熱心な御審議をいただいたことに心より感謝申し上げます。皆様から頂戴した専門的な意見と、阿南市をより良くしたいと思う貴重な御提言は、今後4年間における本市の進むべき方向性を定める上で、極めて重要なものとなりました。

この見直しの計画が単なる紙上の計画で終わらないよう、2028年の都市像として掲げました「輝く個性を育む 自然と調和した産業都市 阿南」の実現に向け、そして市民の皆様の幸せを「カタチ」にするため、私自身が先頭に立ち、市役所職員がワンチームとなって、持続可能なまちづくりをスピード感をもって着実に進めてまいります。

今後とも、さらなる市政の発展のために、委員の皆様からの御指導を引き続き、賜りますようお願い申し上げます。皆様の健康と御活躍を祈念し、ここにお礼の挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

【七條企画政策課長】

本日の会議はこれで終了いたします。長時間にわたりありがとうございました。

(15:55 閉会)